



2019年 8月 7日

中央区長 山本 泰人 様

坂本町公園（日本橋兜町）再整備に向けた提言

——江戸・東京 400 年の伝統の継承と最先端の共存——

文化的景観小委員会主査 石川幹子



坂本町公園（中央区日本橋兜町）は、明治 22 年（1889 年）、東京市区改正設計に基づき、東京における市街地小公園として、最初に整備された由緒ある公園です。市区改正設計における公園整備の考え方は、「衛生に関する巨益」、「首府たるの壮観」、「出火天変の際、人民回避の場所」、「魚蔬の市場として借用」、「車馬の輻集を開通」等で、坂本町公園は近代都市計画における公園の理念を、最初に実現に移した画期的なものでした。

整備された場所は日本橋坂本町警視病院跡で、隣接地は、明治 6 年 3 月（1873 年）に創設された「第一番官立奨学阪本学校」であり、小学校と公園を一体として整備するという考え方が、明治期に実現に移されていたことが分かります。この考え方は、関東大震災後の帝都復興事業における東京市施行の 52 の小公園に継承され、更に全国の戦災復興事業における近隣住区の形成に生かされました。2011 年の東日本大震災時にも、坂本町公園は、地域の皆さんの避難拠点として、大きな役割を果たしました。

当初の設計者は、後に日本全国の公園整備を手掛けることとなる長岡安平で、東京府知事楠本正隆の指揮のもと、市区改正設計の理念を実現に移したと思われます。現在、残されている設計図には、色鮮やかに四季折々の梅、櫻、楓、そしてこれを取り囲むように常緑広葉樹の椎が描かれており、中央部は新しい時代の息吹を感じさせる広々とした芝生と築山であり、当時、街路樹として新しく導入されたエンジュが描かれています。

坂本町公園は、関東大震災、そして第二次世界大戦の空襲により壊滅しましたが、その都度、地域の皆さんと行政の努力により再生され、不死鳥のごとく継承されています。有為転変を繰り返す都市において、江戸以来の祭りや、神輿の展示、御神酒所の開設等が、公園を舞台として今日なお活発に継承され、地域を支えており、その意味で、江戸・東京 400 年をつなぐ「文化的景観」と言うことができます。



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

今般、阪本小学校の建て替えに伴い、坂本町公園の再整備が行われる予定となっており、地元の皆さんや阪本小学校の子どもたちから、様々な夢が寄せられています。なかでも、次世代を担っていく子どもたちの発想は、極めて豊かで、かつ公園が地域のかげがえのない財産となっていることを実感させるものでした（別添資料参照）。これらをふまえ、未来の坂本町公園の再整備について、私どもは次の原則に基づき行われることが重要であると考え、ここに提言いたします。

1. 「文化的景観」として、江戸・東京の歴史的経緯を尊重する。
2. 非常時の避難地として、防災上の配慮を行う。
3. 都市の自然をつくりだす。
4. 広々とした集いの場を創り出し、みどりと共に、水を活かす。
5. こども達が、のびのびと遊ぶ場を創り出す。
6. 阪本小学校と公園の共存に配慮する。
7. 住民・町会・企業・行政の皆さんが公園の持続的維持を支える仕組みを創り出す。

「文化的景観」である坂本町公園の再整備にあたっては、歴史的意義をふまえ、地元の皆さんの御意見を反映し、江戸・東京をつなぐ、確かなメッセージを発信する場となるよう、上記御配慮を賜りたく、お願い申し上げます。

<問い合わせ先>

中央大学研究開発機構
機構教授 石川 幹子

〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27
中央大学 3号館 31207号室
Mail : ishikawa.27w@g.chuo-u.ac.jp

参考資料：『なんてたって坂本町公園：坂本町公園こどもワークショップの記録』
報告書とりまとめ：中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究室
(2019年 8月7日発行)